

第2期座間市まち・ひと・しごと創生総合戦略

令和2年度評価報告書

令和3年3月

座間市企画財政部企画政策課

目次

1	第2期座間市まち・ひと・しごと創生総合戦略について.....	1
2	報告書作成の趣旨.....	1
3	人口動向.....	1
4	総括評価.....	3
5	基本目標ごとの評価.....	3
	評価の方法.....	3
	基本目標1 Z ずっと住みたくなるまちを目指して.....	4
	基本目標2 A あしたを創る地域産業の活性化を目指して.....	7
	基本目標3 M みらいを担う世代のすこやかな育成を目指して.....	9
	基本目標4 A あんぜん・安心な地域づくりを目指して.....	11
	附属資料.....	13

1 第2期座間市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

地方創生とは、平成26年に公布された「まち・ひと・しごと創生法」の目的の一つである、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持することの実現に向けた政策を言います。

本市では、平成28年に「座間市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、令和元年度を目標年度として地方創生に資する取組を計画的かつ戦略的に推進してきました。この総合戦略は、人口減少克服と地方創生に資する取組を重点的に推進するために、総合計画や各分野の個別計画と整合させ、分野横断的に取り組む「戦略的ビジョン」と位置付けています。

その後、令和元年に閣議決定された「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」を踏まえ、地方創生の充実、強化に向け、切れ目ない取組とするため、「第2期座間市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、令和6年度を目標年度として地方創生への取組を継続しています。

2 報告書作成の趣旨

地方創生の推進には、中長期的な視点で取り組む必要があるため、地域の課題や実情に応じたKPI（Key Performance Indicator＝重要業績評価指標）を設定するとともに、外部有識者の知見や市民の意見を活用しながら、データによる効果検証を行い、効果的かつ効率的なPDCAサイクルを実践することが重要です。

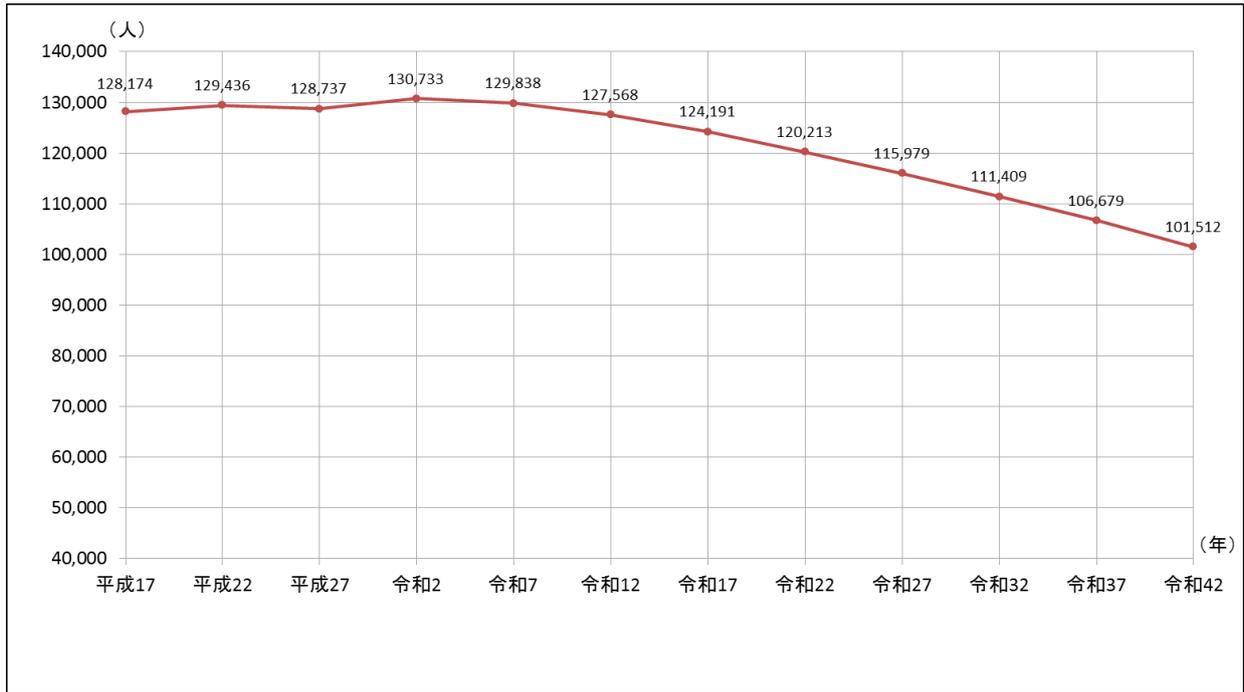
本市では、「第2期座間市まち・ひと・しごと創生総合戦略」における取組を有識者会議や内部推進体制において点検、評価及び効果検証し、PDCAサイクルを構築しています。

本報告書は、急速に変化する社会経済情勢に対応した地方創生の充実、強化に向けた、本市の取組を点検、評価及び効果検証した結果を取りまとめたものです。

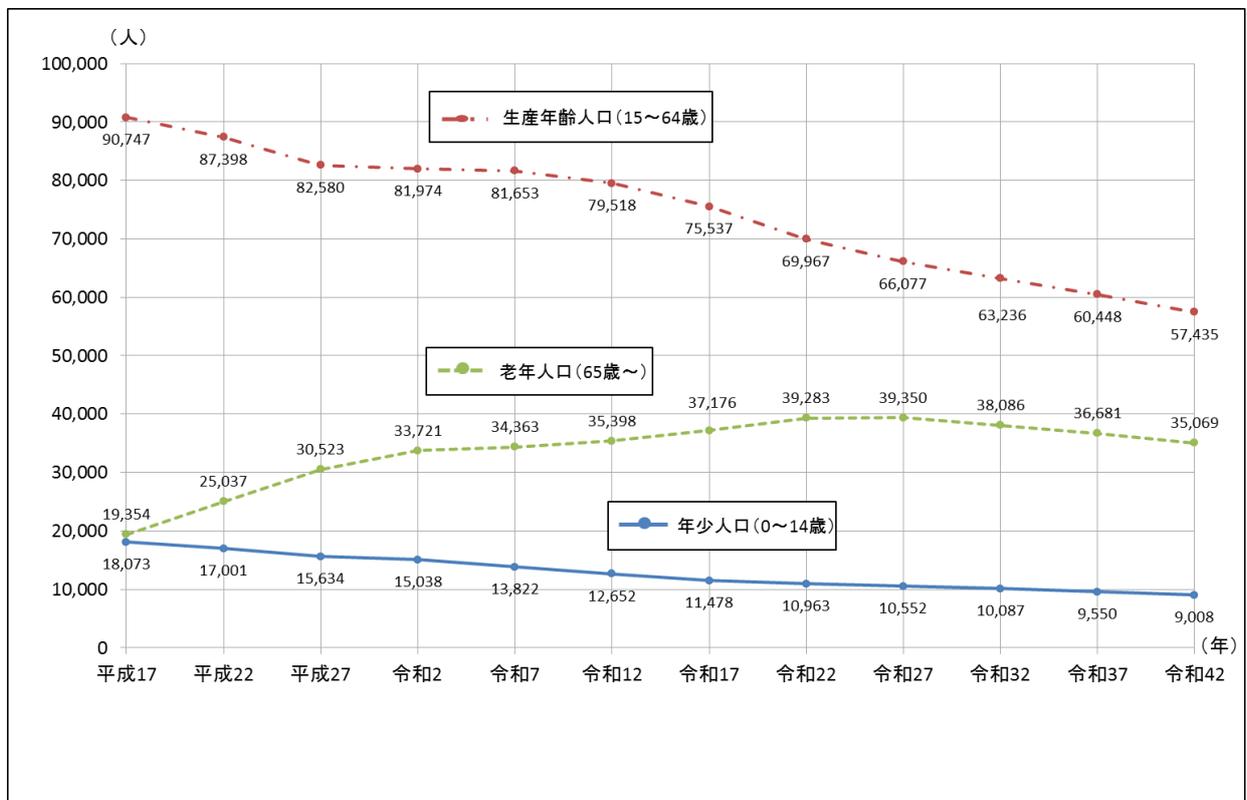
3 人口動向

平成28年に策定した「座間市人口ビジョン」では、本市の総人口は減少の一途をたどる推計でしたが、令和2年までは増加しています。しかし、令和2年までの推移を基に行った新たな推計では、令和3年以降は人口が減少し、徐々に減少幅が大きくなると見込んでいます。（図1参照）

また、年齢3区分別人口を見ると、令和2年までは総人口の増加に対し、年少人口と生産年齢人口は減少し続けています。令和3年以降は総人口の減少に対し、老年人口は増加し、令和23年に総人口の3人に1人になり、令和26年にピークを迎えると推計しています。（図2参照）



▲図1 座間市の総人口



▲図2 座間市の年齢3区分別人口

4 総括評価

本市では、総合戦略を「戦略的ビジョン」とし、人口減少克服と地方創生に資する取組を重点的に推進しています。

本市の総人口は、先述の通り令和2年まで増加してきました。令和2年10月1日現在は130,733人と令和元年10月1日現在の130,608人に対して、わずかながら増加しています。

また、令和2年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が、生活や経済に大きな影響を与え、我が国全体として同感染症対策に力を注いだ1年でした。一人一人の意識や行動にも変化が生まれるとともに、都道府県や市区町村といった自治体の取組にも注目が集まるようになりました。同感染症の感染拡大を防止するための対策や、その影響を受けた市民等に対する支援、新しい生活様式の実践に対応した自治体経営の創意工夫など、正に地方創生の取組として、自治体の地域性に応じた主体的な取組がこれまで以上に必要な年でした。

本市においても、令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、地方創生に関する様々な取組を行いました。この一連の取組について分析を的確に行うとともに、時代の変化を捉えた新しい地方創生という考え方を取り入れながら、今後の行政経営に活かしていく必要があります。

5 基本目標ごとの評価

評価の方法

基本目標は、KPIの評価と令和2年度の取組内容を総合的に判断し、評価しました。

なお、KPIは次の基準で達成状況を検証しました。

KPI達成状況	評価
目標達成	A
目標達成に向け前進	B
目標達成に向け後退	C

基本目標 1 Z ずっと住みたくなるまちを目指して ～郷土愛の醸成と定住の促進～

湧水や自然、歴史、駅が多いまち（交通結節点が多いまち）といった本市の特性を活かしながら、郷土愛を育み、ずっと住みたくなるまちを目指します。

《基本施策》

- (1) 駅を中心とするネットワーク型のコンパクトなまちづくりの推進
- (2) ひまわりや湧水、自然、歴史、文化を活かした観光交流の促進
- (3) シティプロモーションの強化
- (4) 郷土愛を育む機会の充実

➤ 基本目標 1 の評価

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、市民生活の様々な場面でその影響が及び、市民の意識や行動にも変化をもたらしました。

新しい生活様式の実践により、これまで以上に住んでいるまちの姿を見つめ直すきっかけが増え、新たな気付きや課題意識など、市民一人一人が地域について考える機会が増えたと思われまます。

また、テレワーク等の在宅勤務が増えることにより、必ずしも職場のある都心に住む必要のない勤務環境が整備され、首都圏近郊や地方へ移住するという考え方を持つ人々が増加しているとも思われまます。

こうした社会環境の変化に合わせ、本市のシティプロモーション戦略を効果的にマッチングさせることで、「ずっと住みたくなるまち」、「住んでみたいまち」の実現に努めてきました。その実現には現状の課題を的確に把握し、解決していくことが必要であり、その具体例として駅周辺の機能強化や地域コミュニティの充実などが挙げられます。

基本目標 1 ではK P I を五つ設定しており、その達成状況は、目標達成が一つ、目標達成に向け前進が一つ、目標達成に向け後退が三つです。

以上のことを踏まえ、『やや遅れている』と評価します。

▶ K P I の評価

K P I	公共交通機関が発達し、市内、市外への移動が便利になってきていると思う市民の割合（市民アンケート）【%】		
基準数値	最新数値	目標数値	評価
54.3[H30]	52.2[R2]	59.8[R6]	C
<p>市域における公共交通網は整備されている状況です。本市が運行しているコミュニティバスは、運行ルートやダイヤを適宜見直し、持続可能な公共交通を実現しているところです。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の中においても、利用者の協力を得ながら同感染症対策を徹底した上で、通常どおり運行することができました。</p> <p>公共交通機関は、市民生活における移動手段として重要な役割を担っていますので、利便性の向上に努めます。</p>			

K P I	市民の地域に対する愛着が深まり、連帯意識が強まってきていると思う市民の割合（市民アンケート）【%】		
基準数値	最新数値	目標数値	評価
18.7[H30]	24.3[R2]	23.0[R6]	A
<p>市民が地域に対して期待することは様々ですが、連帯意識を強化するためには、「共助」が欠かせないため、本市では、自治会活動や地域防災活動を支援しています。</p> <p>また、本市のマスコットキャラクター「ざまりん」は、シティセールスとして市外、県外に出ていく活動から市内における活動に注力し、郷土愛の醸成に努めました。引き続き、ざまりんの活動内容について検討し、シティプロモーションに努めます。</p> <p>今後は、新型コロナウイルス感染症の影響による生活環境や地域に対する意識の変化を踏まえながら、市民の連携意識の向上に資する取組に努めます。</p>			

K P I	自然、歴史、文化を身近に感じるまちづくりが進められていると思う市民の割合（市民アンケート）【％】			
	基準数値	最新数値	目標数値	評価
	35.1[H30]	32.4[R2]	40.0[R6]	C
<p>本市では、市民との協働によるまちづくりを推進してきました。自然、歴史及び文化は、日常生活で直接関わる機会が少ないため、身近に感じるための機会をつくる必要があります。</p> <p>令和3年11月に迎える市制施行50周年は、改めて本市の自然、歴史及び文化を感じられる機会となるため、令和2年度から実施している広報やPR活動を更に充実させていきます。</p>				

K P I	ボランティア活動などを通じた青少年の社会参加が増えてきていると思う市民の割合（市民アンケート）【％】			
	基準数値	最新数値	目標数値	評価
	14.7[H30]	12.0[R2]	17.0[R6]	C
<p>本市では、青少年の自主的な活動を支援するため、人材育成や友好交流都市との交流事業などを行っています。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、青少年の自主的な活動にも影響を及ぼしていますが、今後も行政のみならず、学校や地域、関係機関が連携して青少年の育成に努めます。</p>				

K P I	市ホームページの閲覧件数【件】			
	基準数値	最新数値	目標数値	評価
	3,431,343[H30]	3,857,636[R1]	4,500,000[R6]	B
<p>市ホームページはパソコン版とスマートフォン版で運用しています。最新の情報を提供しているほか、デザインやコンテンツ表記の統一による画面の改善など、魅力あるホームページ作りに努めています。</p> <p>また、市公式SNSと合わせて情報発信を行うことで、広報活動を充実させています。</p>				

基本目標 2 A あしたを創る地域産業の活性化を目指して ～雇用の創出と企業活動の支援～

本市のものづくりの技術や商工業の特性を活かし、経営基盤強化や人材育成支援、生活支援の充実を図り、本市を支える経済基盤を拡大します。

《基本施策》

- (1) 基幹産業の支援
- (2) 創業の支援
- (3) 生涯現役で社会貢献できる仕組みの構築及び雇用サポート

➤ 基本目標 2 の評価

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、本市の経済に多大な影響を与えました。本市では、事業活動に影響を受けた中小企業者に対する独自の緊急支援策として、資金繰り支援や給付金事業を実施しています。また、市内での消費喚起の促進や地域経済の活性化を目的に、市内店舗で利用可能な「ざ・まる得！プレミアム付商品券」を発行しました。

令和 2 年度は、これらの支援策を重点的に行いましたが、将来的な地域産業の活性化を目指すためには、国県と連携して、それぞれの権限と役割分担に基づき、中小企業等の雇用の維持や事業活動の継続に資する対策を講じるなど、企業活動を支援する必要があります。

基本目標 2 では K P I を三つ設定しており、その達成状況は、目標達成が二つ、最新数値の未把握が一つです。

以上のことを踏まえ、『順調』と評価します。

しかし、同感染症の影響により、K P I の数値が大幅に変わることも想定されますので、今後の動向に注視する必要があります。

▶ K P I の評価

K P I	製造品出荷額等【百万円】			
	基準数値	最新数値	目標数値	評価
	244,734[H29]	304,726[H30]	253,115[R6]	A
<p>本市の経済と雇用を牽引する製造業の生産性向上を後押しすべく、多くの支援策を実施してきました。また、令和2年度で終了としていた「企業投資促進条例」に基づく事業について、実施期間を延長するとともに制度内容も見直しました。</p> <p>令和2年度は、新型コロナウイルス感染症により影響を受けた中小企業者への支援を充実させ、地域経済対策を重点的に行いました。</p> <p>今後も、同感染症による事業活動への影響を注視していく必要があります。</p>				

K P I	年間商品販売額【百万円】			
	基準数値	最新数値	目標数値	評価
	298,706[H28]	未公表[-]	305,969[R6]	—
<p>年間商品販売額の数値が基準数値以降把握できないため、評価できない状況です。</p> <p>商業振興については、多様化する販売方法や市場ニーズを踏まえた振興策を打ち出し、市内の企業活動を活性化させる必要があります。</p>				

K P I	生きがいを感じている高齢者の割合（高齢者保健福祉計画策定に係る基礎調査）【%】			
	基準数値	最新数値	目標数値	評価
	76.8[H28]	81.7[R1]	80.0[R6]	A
<p>高齢者が生きがいを感じ、充実した生活を送るためには、良好な健康状態にあることや、家族、友人及び知人との付き合い以外に、社会的な活躍の場が必要です。</p> <p>本市では、高齢者が持つ知識や経験を活かす機会として、社会貢献活動促進事業やシルバー人材センター運営助成事業などを展開し、高齢者の生きがいにつながる環境づくりに努めています。</p>				

基本目標3 M 未来を担う世代のすこやかな育成を目指して ～若い世代の結婚・出産・子育て～

子供を安心して楽しみながら産み育てることができる環境づくりを進め、郷土愛を育みながら家族や地域との「絆」を深めていきます。

《基本施策》

- (1) 地域全体で支える子育て支援の充実
- (2) 駅を核とするまちなか子育ての充実
- (3) 出会い・結婚・子育て等のトータルコーディネート推進

▶ 基本目標3の評価

令和2年3月に策定した「第2期座間市子ども・子育て支援事業計画」では基本理念を「すべての人で支え合い、笑顔で育ち・子育てできるまちを目指して」と定め、子ども・子育て支援に関する総合的な計画として施策の充実に努めています。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、自治体が独自に行う子育て施策や、居住地の子育てや教育環境に改めて市民の目が向けられています。

本市では、将来的な人口減少を予測していますが、子ども・子育て支援に関する取組をシティセールスの観点も踏まえて、市外にPRしていくことが重要です。

基本目標3ではKPIを四つ設定しており、その達成状況は、目標達成に向け前進が三つ、目標達成に向け後退が一つです。

以上のことを踏まえ、『おおむね順調』と評価します。

▶ KPIの評価

KPI	合計特殊出生率【%】		
基準数値	最新数値	目標数値	評価
1.30[H29]	1.28[H30]	1.44[R6]	C
我が国は、人口減少や少子化の進行という問題に直面しているため、国を挙げた対策を講じているところです。			
自治体独自の取組によって解決していくことには限界がありますが、長期的な課題として、引き続き少子化対策を総合的に進めます。			

K P I	子育てしやすいまちになっていると思う市民の割合（市民アンケート）【%】		
	基準数値	最新数値	目標数値
	31.7[H30]	32.6[R2]	37.0[R6]
	評価		
	B		
	<p>本市ではこれまでも、子ども・子育て施策の充実に取り組んできました。令和2年度には、国の特別定額給付金の基準日を過ぎて生まれた子どもに対して「赤ちゃん応援すくすく給付金」を給付しました。</p> <p>市民は、子育てがしやすいまちという視点を重視しているため、今後も子育て環境の整備を推進するとともに、本市が取り組んでいる内容や支援制度の周知に努めます。</p>		

K P I	駅周辺地区（小田急相模原駅、相武台前駅、座間駅、さがみ野駅）の人口【人】		
	基準数値	最新数値	目標数値
	53,420[R1]	52,893[R2]	51,000[R6]
	評価		
	B		
	<p>本市は、現在、駅周辺の再開発事業を行っていないため、大幅な人口増加は見込んでいませんが、新型コロナウイルス感染症による影響を踏まえた、新しい生活様式の実践により、働き方や日常生活に変化が起きたことは、駅周辺地区の人口の社会増減にも影響すると考えられることから、その動向を注視していく必要があります。</p>		

K P I	市主催の婚活イベントへの参加者数（延べ人数）【人】		
	基準数値	最新数値	目標数値
	408[R1]	442[R2]	758[R6]
	評価		
	B		
	<p>婚活イベントは、新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインで開催するなど規模を縮小して実施しました。</p> <p>今後、本市が出会いの場やコミュニケーションのための機会を提供することについては、その手法や内容を工夫していく必要があります。</p>		

基本目標 4 A あんぜん・安心な地域づくりを目指して ～時代に合った地域づくり・地域間の連携～

「安全」「安心」な本市のイメージを高めるために、医療体制や危機管理体制の充実を図り、人材という知恵と資産を守っていきます。

《基本施策》

- (1) 救急医療体制の充実
- (2) 危機に備えるための取組強化・防災組織の充実強化
- (3) 健康の増進と健康寿命の延伸
- (4) 次世代への資産継承

▶ 基本目標 4 の評価

安全・安心な地域づくりは、自治体共通のテーマとして危機管理や医療体制をはじめとするそれぞれの施策において課題を捉え、対応しているところです。

さらに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、新しい生活様式の実践により、3密の回避や新型コロナウイルスワクチンの接種などの安全、安心に関する新たな課題も浮かび上がりました。このように、社会経済情勢や生活環境などの変化に伴い、安全、安心に求められる内容も変化しますので、これらに対して柔軟に対応していく必要があります。

基本目標 4 では K P I を三つ設定しており、その達成状況は、目標達成に向け前進が一つ、目標達成に向け後退が二つです。

以上のことを踏まえ、『遅れている』と評価します。

▶ K P I の評価

K P I	医療サービスを必要なときに受けられるようになってきていると思う市民の割合（市民アンケート）【%】		
基準数値	最新数値	目標数値	評価
59.9[H30]	59.1[R2]	60.2[R6]	C
<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、市民の医療分野に対する関心が非常に高まりました。</p> <p>医療サービスは、健康維持のための日常的な検査や通院から緊急時の救急医療まで、幅広い体制の下で提供されています。</p> <p>本市ではこれまで救急医療体制の整備を進めてきましたが、今後も救急医療体制の充実により、市内の救急搬送率を向上させ、安定的に医療サービスを提供できる体制の整備に努めます。</p>			

K P I	安全、快適な道路になってきていると思う市民の割合（市民アンケート）【%】		
基準数値	最新数値	目標数値	評価
30.0[H30]	29.0[R2]	35.6[R6]	C
<p>本市は、道路の新設、改良、維持補修を着実に推進してきました。</p> <p>今後も、産業振興や災害時に果たすべき役割、利便性向上などの視点を持ち、国県や関係機関と連携しながら、安全で快適な道路整備に努めます。</p>			

K P I	生活習慣病による死亡割合【%】		
基準数値	最新数値	目標数値	評価
56.6[H29] ※	54.6[H30]	51.5[R6]	B
<p>死亡原因における生活習慣病の割合は、本市の取組のほかにも様々な要因が影響するため、課題の実態を客観的に示すものと捉えています。</p> <p>生活習慣病を引き起こす原因は様々ですが、最も有効な予防策は、一人一人が意識を変え、日々の生活に活かすことと考えます。</p> <p>本市では、引き続き生活習慣病予防策を重点とした検診体制の充実及び知識の普及啓発に努めます。</p> <p>※計画上の基準数値は55.0% [H30] ですが、H30 確定値が54.6%と示されたため、基準数値を56.6% [H29] として評価を算出しています。</p>			

付属資料

「第2期座間市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の推進に当たって、各施策の状況、取り組むべき課題について、次の組織等において点検、評価及び効果検証を実施しています。

➤ 有識者会議：「座間市総合戦略推進懇話会」

「座間市総合戦略推進懇話会」は、地方創生を効率的かつ効果的に推進していくためには、様々な御意見をいただくことが重要であることから、産業界や大学、金融機関、労働団体等で構成する推進組織として設置しました。

・令和2年度 開催概要

日時：令和3年3月5日～12日（書面開催）

委員：

	氏名	肩書
委員長	長本 享一	座間市商工会会長
副委員長	小林 智之	座間市社会福祉協議会常務理事
	浅野 俊一郎	株式会社横浜銀行座間支店支店長
	石井 幸介	神奈川県県央地域県政総合センター企画調整部長
	大下 聖治	和泉短期大学児童福祉学科副学長
	中尾 隆徳	神奈川県連合会県中央地域連合事務局長

内容：評価報告書の作成に当たり、委員の皆様から頂いた主な御意見は次のとおりです。

- ・国全体が人口減少期にある中、人口が増加していることは、全体的な取組を大変評価できるものとする。また、各基本目標の評価が高まる施策が行われるよう期待する。
- ・子ども・子育てについて、各事業おおむね順調に進み、高い達成度と認識しているが、今後も事業を継続することに加え、更に充実させることで、「子育てしやすいまち」と高く認識されるための施策と周知を積極的に推進されるよう期待する。
- ・雇用サポートと企業等支援の観点から、様々な世代において有資格者の掘り起こしと企業とのマッチングを強化されたい。

➤ 内部推進体制：「座間市総合計画等に関する検討委員会」

「座間市総合計画等に関する検討委員会」は、将来の人口減少問題に対し、庁内全体での意識共有や横断的・戦略的な事業を展開するため、副市長を委員長とする検討組織として設置しました。